

生産者の経営概要等について

1. ^{すがい}菅井 ^{ひろたか}裕貴 氏（北海道 ^{おこっぺ}興部 町）
2. ^{みよし}三好 ^{たかゆき}孝行 氏（北海道 ^{ふらの}富良野 市）
3. ^{やまうち}山内 ^{こうすけ}功丞 氏（北海道 ^{てしかが}弟子屈 町）
4. ^{わたなべ}渡辺 ^{ひろあき}浩明 氏（北海道 ^{さらべつ}更別 町）
5. ^{たかはし}高橋 ^{けんじ}憲二 氏（千葉県いすみ市）

菅井牧場の経営概要

菅井牧場	北海道興部町
------	--------

■ 菅井 裕貴氏（34 歳）

■ 構成員 4 名（本人、妻、父（代表）、母）

■ 経営概況 飼養頭数：乳用牛 100 頭（うち経産牛 60 頭）

出荷乳量：520 トン

牛 舎：つなぎ式 1 棟、育成牛舎 2 棟、乾乳牛舎 1 棟

搾乳形式：パイプライン

糞尿処理：バーンクリーナー

農地面積：放牧地 18ha、採草地 45ha

■ 経営の特色

- ・粗飼料は 100% 自給しており、草地の計画的な更新と適切な維持、管理、適期収穫を行い、良質粗飼料を与えることで、購入濃厚飼料の低減を図っている。
- ・春から秋にかけて放牧を行い、同じく購入濃厚飼料の低減を図っている。
- ・乳牛は、100% 自家産しており、F 1 などを含め、計画的に個体販売を行っている。
- ・JA のコントラクター事業を利用しながら労働力負担軽減を図っている。

■ 経営上の中長期的な課題

- ・施設の老朽化が課題となっており、新築もしくは改修が今後必要となる。しかしながら、近年の建築資材価格等の高騰で、莫大な建築費用となることが想定されており、建築コストの軽減が今後の課題となる。

■ 経営上の課題解決の助けになると考えられる支援

- ・現状、畜産クラスター事業など十分な支援を頂いていると考えているが、適正な家族経営の規模を維持できるような施設の補改修等に対する国の支援を頂きたい。

■ 補給金の算定に対する所感

- ・少なくとも現行の所得水準を確保した上で、液状乳製品を対象として頂きたいと考えている。

一方で、現行の補給金算定に係る生産コストが実態にあっていない部分があるのは事実であると考えている。よって、より現場の実態にあった算定方法となるような仕組みの見直しをお願いしたい。

有限会社 三好牧場の経営概要

有限会社 三好牧場	北海道富良野市
-----------	---------

- 三好 孝行氏（67 歳）
- 構成員 9 名（本人（代表）、妻、長男夫婦、次男夫婦、従業員 2 名、実習生 1 名）
- 経営概況 飼養頭数：乳用牛 300 頭（うち経産牛 151 頭）
出荷乳量：1,770 トン
（現在 129 頭搾乳 日乳量 42.6kg/頭 5,500kg/日）
牛舎：搾乳牛舎 1 棟、乾乳牛舎 2 棟、育成牛舎 2 棟、哺育牛舎 1 棟
搾乳形式：パイプライン・ミルカー 14
糞尿処理：堆肥場、尿溜
農地面積：146ha（草地 116ha、デントコーン 30ha）
- 経営の特色
 - ・ 個体の改良を軸に、後代検定用候補牛の生産（年間 20 頭）、受精卵の販売
 - ・ 28 年 5 月現在の牛群成績：13,263kg 27 年度：12,820kg（全道 5 番目）
 - ・ 北米の遺伝子を、受精卵とゲノム評価した若い種雄牛の供用により導入し、高い遺伝能力を追求
 - ・ 家畜飼養と繁殖管理の獣医師 2 名とコンサルタント契約、普及センターの指導を受け、専門家のアドバイスを忠実に実行
- 経営上の中長期的な課題
 - ・ 本年度のクラスター事業により、搾乳ロボット 3 台を導入予定であり、牛群の個体能力を 1 頭あたり 15,000kg を目標とする（本年度中に 14,000kg を超える見込み）。
 - ・ 乳牛の増頭と、離農者の農地を購入により、規模拡大を図る。
- 経営上の課題解決の助けになると考えられる支援
 - ・ 規模拡大に伴う施設と高い能力の遺伝子導入に対する国の支援、さらに優良農地にするための土地の基盤整備に対する助成を求めたい。
 - ・ 農の雇用事業を引き続き運用し、農業者以外の新規参入者への研修を通じて担い手の確保に努めたい。
- 補給金の算定に対する所感
 - ・ 不足払いの暫定措置法を恒久的な法律に改めて、長期的見通しの持てる手取り乳価にすべきである
 - ・ この制度は、酪農家の経営安定に寄与するという観点だけではなく、食の安心・安全をはかる消費者のための国の政策であるという説明が足りない。

山内牧場の経営概要

山内牧場	北海道川上郡弟子屈町
------	------------

- 山内 功丞氏（39 歳）
- 構成員 5 名（本人、父（代表）、母、妻、従業員）
- 経営概況 飼養頭数：乳用牛 250 頭（うち経産牛 140 頭）
出荷乳量：1,350 トン
牛舎：フリーストール 1 棟、育成牛舎、乾乳牛舎 1 棟
搾乳形式：ロボットシステムを使用しながら手動搾乳
糞尿処理：スラリーラグーン、堆肥舎
農地面積：採草地 80ha、デントコーン 35ha

■ 経営の特色

- ・平成 19 年に搾乳ロボット導入、合わせて規模拡大を図った。
しかし、ロボットによる自動搾乳に対応できず、手動搾乳せざるを得ない牛が増加し、効率が低下した。そのため、3 年前に自動搾乳を停止し、ロボットを使用しての全頭手動搾乳に切り替えるとともに、1 日 3 回の搾乳を実施している。
- ・粗飼料収穫等は全てコントラクターを利用し、搾乳作業に専念。

■ 経営上の中長期的な課題

- ・頭数規模は維持しつつ、個体乳量を増加させることで、年間出荷乳量 1,500 トンを目指す。
- ・分娩間隔を短くするために、繁殖管理を徹底。
- ・デントコーンの作付面積を増やし、嗜好性の高い TMR を給与。

■ 経営上の課題解決の助けになると考えられる支援

- ・牧場対農協、牧場対 N O S A I といった繋がりはあるが、農協、N O S A I、役場、普及センター等の関係機関間の連携が薄いので、牧場の情報を共有し、関係の強化を図る。

■ 補給金の算定に対する所感

- ・近年、原油価格の下落や牛の市場価格が高騰し、酪農家の経営は上を向いてきているが、今後大型投資を簡単に計画できるレベルではないと思う。基盤をしっかりと整えるためにも、コスト算定の期間を長く設定することは必須だと考える。

渡辺牧場の経営概要

渡辺牧場	北海道河西郡更別村
------	-----------

- 渡辺 浩明氏（35 歳）
- 構成員 3 名（本人、父、母）
- 経営概況 飼養頭数：乳用牛 190 頭（うち経産牛 115 頭）
出荷乳量：1,100 トン
牛 舎：フリーストール 1 棟、乾乳舎 1 棟、育成舎、哺乳舎
搾乳形式：8Wパーラー ヘリンボーン式
糞尿処理：固液分離スラリー方式、スラリーストア 1 槽
農地面積：牧草地 54.4ha、デントコーン 8 ha

■ 経営の特色

- ・牧草サイレージを中心とした飼料給与体系を取り、TMR給餌をしている。
- ・酪農コンサルタントによる飼料設計と牛群の状態管理を行い、分娩後の疾病の低減、また、グラスサイレージの発酵品質の安定化に取り組み、乳房炎発生リスクを低下させたことで、出荷乳量の増加を実現した。
- ・F1生産をやめ、自家生産による後継牛確保に努める。

■ 経営上の中長期的な課題

- ・粗飼料生産畑の確保
- ・安定的な雇用人員の確保
- ・再生産可能な乳代・収益性の実現
- ・経営継承

■ 経営上の課題解決の助けになると考えられる支援

■ 補給金の算定に対する所感

- ・加工原料乳の取扱が多い地域なので、単価・交付対象数量の1本化に注視している。過去の例から見ても、生産資材の急激な高騰による収益性の低下は今後も十分に起こりえるので、状況に即した単価の見直しの行える制度と単価水準である必要があると考える。

有限会社 高秀牧場の経営概要

有限会社 高秀牧場	千葉県いすみ市
-----------	---------

- 高橋 憲二氏（51 歳）
- 構成員 牧場スタッフ 7 名（本人（代表）、妻、従業員 5 名）、
ジェラート工房 パート 2 名、チーズ工房 2 名（従業員 1 名、研修生 1 名）
- 経営概況 飼養頭数：乳用牛 150 頭（うち経産牛 90 頭）
出荷乳量：900 トン
牛舎：ニューヨークタイストール 1 棟 70 頭、哺育・分娩牛舎 1 棟、
育成牛舎 1 棟
搾乳形式：パイプライン
糞尿処理：バークリーナー 堆肥舎（ロータリー式発酵堆肥舎）
原尿槽→ラグーン（液肥化）
農地面積：31ha（放牧地 1ha、デントコーン 15ha、
エン麦・イタリアン混播 15ha）
- 経営の特色
 - ・ 輸入飼料に頼らないで 100%自給飼料で牛を飼うことにチャレンジしている。
 - ・ 現在、粗飼料は 100%自給。配合飼料は飼料米、米ぬかを中心に酒粕、ビール粕、
みりん粕、醤油粕とわずかの配合飼料を TMR で給与している。飼料全体の 75%
が国産飼料、25%が輸入配合飼料。
 - ・ 耕畜連携や化学肥料に頼らない循環型農業を実践している。
 - ・ 4 年前にチーズ工房をオープンし、今月にはジェラート工房をオープンするなど、
6 次産業化にも取り組んでいる。
- 経営上の中長期的な課題
 - ・ 事業内容は増えているが、人材不足感がぬぐえない。募集しても確保が難しい状況
であり、今後は優秀な人材をいかに確保するかが課題。
- 経営上の課題解決の助けになると考えられる支援
 - ・ 農の雇用事業には助けられている。もう少し書類の簡素化をお願いしたい。
 - ・ 現在雇用している従業員が新規就農希望者であり、いかに就農させるかが課題。
- 補給金の算定に対する所感
 - ・ 乳製品向けに補給金が交付されることで、乳製品向け生乳中心の北海道と、飲用向
け生乳中心の都府県との住み分けが出来る。国内の酪農の共生の意味で、都府県に
も大きな意義がある。
 - ・ 酪農経営の所得は、まだまだ低いと感じている。乳価交渉と酪農家の努力が第一だ
が（補助だけに頼るべきではない）、補給金制度の改正も、所得向上に寄与できる
内容となることを望む。所得の向上が、雇用の充実、将来への投資、後継者確保に
もつながると考える。